

平成25年度(2013年度)南湖湖底改善区における水草の繁茂状況

井戸本 純一

1. 目的

ニゴロブナやホンモロコ、セタシジミの漁場として重要な琵琶湖南湖の機能を回復させるために造成された草津市地先の水ヨシ帯前面の砂地と湖底耕耘活動が継続的に行われている周辺区域について、水草（沈水植物）の繁茂状況をモニタリング調査した。

2. 方法

長期的な経年変化の比較を可能にするため、過去の湖底耕耘事業における調査地点（耕耘区および対照区）の一部を踏襲し、造成された砂地の地点（覆砂区）を加えて20か所に定点を設定した（図1）。ロープに結んだ採集具（長さ2mの鎖に8本の押しバネをはしご状に固定）を船上から約5m投げて水草を引上げ、1定点につき3回の合計を採集量とした。

3. 結果

耕耘活動が始まる前の5月と水草現存量が

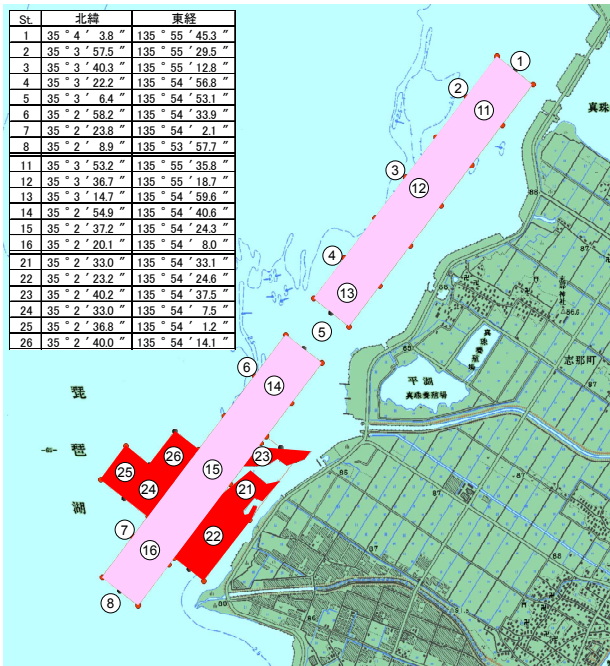


図1 水草採集調査地点. 1~8: 対照区, 11~16: 耕耘区, 21~26: 覆砂区 (工期順).

最大となった後の10月の調査結果を表1に示した。5月の平均採集量は、対照区44.9g、耕耘区42.0g、覆砂区16.8gであったが、10月にはそれぞれ821.0g、553.9g、643.2gに増加した。センニンモとマツモがすべての定点で出現したが、優占種にはならなかった。一方、コカナダモは5月から10月にかけて出現頻度が急増し、直近の覆砂区（平成23・24年度工区）で優占種となった。

表1 各定点における水草の採集量と出現種

調査地点	採集量 (湿重量:g)		オオカナダモ	コカナダモ	ササバモ	センニンモ	マツモ	ホザキノフサモ	クロモ	コウガイモ	オオトリゲモ	シヤジクモ
	区	定										
2013年5月14日												
対照区	1	100.8	169	○	○	◎	○	○	○			
	2	0.0	2			○				○		
	3	0.0	0					○				
	4	0.0	2				○			○		
	5	44.7	62	○			○	○		○		
	6	33.2	45	○	○		○	○	○	○		
	7	0.1	54	○	○		○	○				
	8	3.9	25	○	○		○	○		○		
耕耘区	11	3.4	12			○						
	12	25.8	19	○		○	○					
	13	36.8	128	◎			○	○	○			
	14	131.5	91	○			○	○	○			
	15	0.2	1				○					
	16	0.0	1					○		○		
覆砂区	21	27.5	84	○		○	○	○				
	22	0.2	1				○					
	23	3.6	8				○	○				
	24	0.1	4				○		○			
	25	0.2	4			○	○	○		○		
	26	0.1	0									
2013年10月18日												
対照区	1	13.6	2,230	○		◎	○	○	○	○	○	
	2	0	847	○	○	○	○	○	○	○		
	3	0	87	○	○	○	○	○	○	○		
	4	0	104	○	○	○	○	○	○	○		
	5	52.7	1,108	○	○	○	○	○	○	○	○	
	6	4.5	1,710	○	○	○	○	○	○	○		
	7	7	291	○	○	○	○	○	○	○		
	8	6.4	193	○	○	○	○	○	○	○		
耕耘区	11	59.3	670	○	○	○	○	○	○	○	○	
	12	24.8	642	○	○	○	○	○	○	○	○	
	13	12.8	697	○	○	○	○	○	○	○	○	
	14	9.9	916	◎	○	○	○	○	○	○	○	
	15	8.3	323	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	16	1.1	77	○	○	○	○	○	○	○		
覆砂区	21	70.5	784	○	○	○	○	○	○	○	○	
	22	2.9	633	○	○	○	○	○	◎		○	
	23	18.1	1,221	○	○	◎	○	○	○	○	○	
	24	8.4	721	○	○	○	○	○	○	○	○	
	25	1.1	334	○	◎	○	○	○	○	○		
	26	3.1	166	○	◎	○	○	○	○			

◎は優占種(採集量100g以上のうち半分を占めるもの)